

スパコン性能ランキングで、ローレンス・リバモア国立研究所の「セコイア」が首位に（6月18日）

エネルギー省（Department of Energy）は6月18日、ドイツ・ハンブルクで開催された国際スーパーコンピューティング会議（International Supercomputing Conference）にて発表されたスパコン性能「トップ 500（Top500）」リストにおいて、ローレンス・リバモア国立研究所（Lawrence Livermore National Laboratory）のスパコン「セコイア（Sequoia）」が首位となったことを発表した。

「セコイア」は、国家核安全保障局（National Nuclear Security Administration：NNSA）の先端シミュレーション・演算（Advanced Simulation and Computing：ASC）プログラムにおける利用を目的としてアイ・ビー・エム社（IBM Cooperation）が開発したスパコンで、同社のBlueGene/Qシステムを採用し、演算性能は16.32ペタフロップスとなっている。

その他、3位にアルゴンヌ国立研究所（Argonne National Laboratory）の「ミラ（Mira）」、6位にオークリッジ国立研究所（Oak Ridge National Laboratory）の「ジャガー（Jaguar）」がランクインしており、エネルギー省傘下の国立研究所が所有するスパコンのうち3台が15位内に入っている。

Department of Energy, United States Regains Lead with World' s Fastest Supercomputer  
[http://energy.gov/articles/united-states-regains-lead-world-s-fastest-supercompute](http://energy.gov/articles/united-states-regains-lead-world-s-fastest-supercomputer)